新刊紹介

葛兆光著『形似神異――中日伝統政治文化の系譜』

監修　新井孝重　翻訳　永田小絵

本誌連載中の「中国史の舞台裏」の著者である葛兆光氏の新著『形似神異』（日本語版）を紹介する。

葛兆光氏は、東京カレッジ連携教員として東京滞在中の研究成果を、帰国後の二〇二三年に「中日伝統政治文化論」と題する長編の論文として清華大学紀要に発表し、翌二〇二四年、中国社会科学文献出版社から単行本「形似神異――什麼是中日傳統政治文化的結構性差異」として刊行された。とかく「同文同種」、「一衣帯水」などの言葉でその同一性、共通性が強調されてきた日中両国は政治文化のレベルにおいて伝統的に大きく異なっており、その相異が両国の近代化の過程や、今日にいたる政治体制のあり方にまで決定的な影響を及ぼしていることを、両国の歴史を遡って実証しようするものである。

同書は、上篇：皇権と革命―政治権力の合法性、中篇：「革命」か「放伐」か―初歩的な議論、下篇：王権と神仏――イデオロギーと宗教・信仰の三部構成となっており、政治権力の正統性、地方と中央の関係、政治権力と宗教勢力という三つの分野での違いを日中両国、周辺諸国にわたる膨大な史料、多数の論文などを駆使して論証する。

上篇では王朝交替を繰り返した中国と万世一系の天皇家が今も存続する日本の政治文化の相違を指摘し、中篇では中央政権が地方を統治する際の両国の制度的な支配構造を比較する。そして、下篇では政治と宗教の関係について、武家の政権と対峙する寺家の勢力と、政治に支配される中国の宗教との違いを種々の歴史事件を例証として浮き彫りにしている。

志学社
2025年８月29日刊
ISBN
978-４-909868-18-３
税込　４,400円

また、付録の書評は、尾藤正英『日本文化の歴史』、田中健夫『中世対外関係史』、新井白石『折たく柴の記』、丸山眞男『忠誠と反逆』、村井章介『古琉球 海洋アジアの輝ける王国』を取り上げて論じる。日本の読者とは異なる中国の歴史学者の視点は新鮮で興味深い。

著者が日本語版前書きで「中国の研究者として、実は日本の歴史を借りて中国史について論じている」、「私がフォーカスしているのはやはり中国について語ること」と書いているように、中国の観点を理解するうえでも一読に値する良書である。

中国国内でもすでに多くの書評が出ており、「『形似神異』は単なる日中の歴史比較ではなく、差異をどのように捉えるかという方法論をも示した好著」との評価を得ている。

（永田小絵）